

東海工業専門学校金山校

学校自己評価報告書
(平成29年度)

平成30年7月

学校法人電波学園

東海工業専門学校金山校

学校評価委員会

委員長	野村	種明（校長）
総括責任者	成田	節雄（建設学部部長）
副委員長	阪	浩一（教務科長）
委員	荒居	秀征（建設学部科長）
	神谷	公司（事務長）
	高野	太輔（教務）
	鈴木	亜紀（教務）

目 次

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標・重点目標	P 3
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 4
	(1) 教育理念・目標	P 4
	(2) 学校運営	P 5
	(3) 教育活動	P 6
	(4) 学修成果	P 8
	(5) 学生支援	P 9
	(6) 教育環境	P 10
	(7) 学生の受入れ募集	P 11
	(8) 財務	P 12
	(9) 法令等の遵守	P 13
	(10) 社会貢献・地域貢献	P 14
	(11) 国際交流	P 15
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 16

I 学校の現況

- (1) 学校名 東海工業専門学校金山校
- (2) 所在地 名古屋市中区金山二丁目7番19号
- (3) 沿革
- | | | |
|-------|----|-----------------------------------------------------------------------|
| 昭和36年 | 4月 | 学校法人 電波学園 東海製図技術学校として発足 |
| 昭和45年 | 4月 | 東海工業専門学院に名称変更 |
| 昭和50年 | 2月 | 東海工業専門学校と改称 |
| 昭和50年 | 4月 | 学校教育法第82条の2および学校教育法の一部を改正する法律にもとづき専修学校として認可される。 |
| 平成7年 | 4月 | 名古屋市中区金山に東海工業専門学校熱田校の姉妹校として東海工業専門学校金山校を開校 |
| 平成16年 | 4月 | あいち建築デザイン専門学校と校名を改称 |
| 平成19年 | 3月 | 鉄筋コンクリート10階建ての増築棟完成
鉄骨造4階建ての実習棟完成 |
| 平成20年 | 4月 | 東海工業専門学校金山校と校名を改称 |
| 平成26年 | 4月 | 文部科学省から、建築工学科 昼間部・建築設備科・大工技術科・インテリアデザイン科・土木工学科・測量設計科が職業実践専門課程として認定される |

- (4) 学科の構成
- | | | |
|--------|------------|-----|
| 工業専門課程 | 建築工学科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | 大工技術科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | 建築設備科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | インテリアデザイン科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | 土木工学科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | 測量設計科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | 建築ライセンス本科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | 測量科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | 建築ライセンス科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | 測量研究科 | 昼間部 |
| 工業専門課程 | 建築工学科 | 夜間部 |

(5) 学生数および教職員数

学生数：938名

教諭数：専任 34名 講師84名 事務職員 5名

(6) 施設の概要

地上11階

普通教室、視聴覚室、大講義室、製図室、コンピュータ室、デッサン室

展示室（作品・インテリア）、予備室、会議室、屋上実習地

実習室（実験実習室、測量実習室、大工実習室、設備実習室）

学生相談室、進路指導室、学生食堂

Ⅱ 評価の基本方針

- ・ 学校としての組織的な取り組みや成果を調査し、現状や評価できる点、問題点および今後の方策や改善スケジュールを導き出す。
- ・ 教育水準の向上と保証を図る。
- ・ 教職員が課題意識を共有する。
- ・ 家庭や地域に支えられる開かれた学校を築き相互理解を深める。
- ・ 「ありがとう」と周囲から感謝される学校づくりに役立てる。
- ・ 個人情報保護や安全確保に留意して作成する。
- ・ 具体的なデータに基づき客観的に評価する。
- ・ 学校自己評価を実施して終わりではなく、教育活動や学校運営の改善につなげる。

Ⅲ 教育目標・重点目標

(1) 本学園の建学の精神「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」

(2) 学生一人一人のニーズを満足させると共に、質の高い国家資格を持った技術者を育成する。

(3) これにより「夢をかたちに」を実現する。

また、育成すべき人材像として「専門性」「協調性」「信頼性」を挙げており、教師と学生の距離が近いという校風の上に、それらを達成するための教育活動を始めとした各種施策を推進している。

以上の理念は全教職員および全学生に周知しており、学外に向けてもメッセージとして発信している。

IV. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	3	2	1
○学校における職業教育の特色は定められているか	4	3	2	1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
○学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか	4	3	2	1
○各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 課題

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に十分周知されていないところがある。特に直接話す機会の少ない保護者、業界等について十分でない点がある。よって、保護者会にてアンケートを実施したが、学校理念・目的などに対する認知度は低い結果であった。
- ・建設業界や専門学校を取り巻く環境の変化に対応して各学科の特色を顕著に出すための工夫が今後の課題となる。
- ・学科ごとの育てたい人材像とカリキュラムの整合性が十分に検証されていない。

② 今後の改善方策

- ・東海地区保護者会や教育懇談会などでの保護者への周知（配布物や挨拶）及び求人DMの挨拶文同封等による周知の実施をする。
- ・教育設計図を早期検討して作成をしていく。
- ・教育課程編成委員会等にて建設業界のニーズを確認しシラバスの整備を行い、各学科の目標を見直しPDCAを展開させていく。

③ 特記事項

- ・特記事項なし

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
○運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
○人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
○教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

- ・コンプライアンスの体制案等は策定されているが、それをチェックする内部監査等の機能を確立することが課題となる。
- ・法人事務局管理課と情報システム化を検討して10年近く経過したが、構想は出来ているものの思うように進捗していない。

② 今後の改善方策

- ・コンプライアンスについては、定期的な講習会を実施する。
- ・情報システム化については、学園全体で検討して構築する必要がある。また、システム業務を専門に実施する職員を配属するなど、検討が必要である。

③ 特記事項

- ・情報公開については、ホームページ等により適切に公開している。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
○関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
○関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
○職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
○資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・教育到達レベルの設定や学習時間の確保、学科のカリキュラムの体系的な編成について不十分な点がある。
- ・建設業界のニーズは届いているものの、全てに対して対応しきれていない。
- ・インターンシップを実施しているのは土木系の学生全員と建築系の希望者のみで、全員に対して対応しきれていないことが課題である。
- ・業界からの教員・講師の確保については苦戦している。また仕組みも行っていない。
- ・時代の変化と共に技術革新が激しい業界に対応して、優秀な教員を確保していくことは容易ではない。
- ・建設分野の研修については積極性に欠けている。
- ・教員の教育力向上においては、各種講習会や現場見学会に参加させる必要があるが、現状では目の前の業務に追われて非常に厳しい状況である。

② 今後の改善方策

- ・教育設計図の構築により解消する。また、学園の取り組みであるロードマップとも共有させて構築させる。
建設業界ニーズを踏まえたカリキュラムの授業内容になるように、シラバスを毎年見直す必要がある。
- ・教育・講師の確保について業界との更なる連携を進めることで確保したい。
- ・建築系学生のインターンシップにおいては、担任・県人担当者および就職指導室と連携して早期就職活動の意識を学生に植え付ける必要がある。
- ・建設学部と学園人事部が連携し、組織的な人材育成および人材採用の確保に取り組む。
- ・教員の教育力の向上においては、各種講習会や現場見学会に参加しやすい環境づくり、また夏期および冬期研修日の有効活用を促す。また、年度始めに教員に付与すべきスキルを洗い出し、積極的に研修を実施する。

③ 特記事項

- ・学園組織である教務委員会にて、「ロードマップ」を平成30年度検討中である。
- ・一般的な教員スキル研修は、学園研修でその機会が確保されている。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
○資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
○退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
○卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・卒業生の追跡調査には限界があり一部の卒業生についてのみ把握できている。資格等キャリア形成の効果について調査に限界がある。
- ・卒業生の社会的な活躍及び評価は十分把握出来ていない。

② 今後の改善方策

- ・卒業生に対する就職状況調査が努力義務となったため、企業の理解を得て今年度より調査を実施し、卒業生の社会的活躍を把握する。
- ・就職に対する効果的な具体策は、特に見当たらない。
- ・就職先への企業訪問の実施により勤務状況の把握に努めているが、その数は限られている。活発に活動している校友会各支部と連携し卒業生の動向を把握し活躍を評価したい。

③ 特記事項

- ・卒業生に対する就職状況調査については、近年中には義務化される。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○進学・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
○学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
○学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
○学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
○保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
○高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1
○関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか	4	3	2	1

① 課題

- ・担任の経験年数による就職支援体制が異なることは仕方のないことであるが、経験不足担任への就職活動のフォローが出来ていない。
- ・課外活動に対する支援体制は特にはないが、支援要請には対応できるしくみがある。
- ・入学生には多種多様な学生が多く、精神的な問題を抱える学生も少なくない。現在は大きなトラブルも無く授業や実習等が行われているが、その様な学生が在籍していることを全職員が常に認識しておく必要がある。
- ・毎年4月に、健康診断を実施し健康状態の把握、健康管理に努めている。その健康診断結果は、就職活動で使用する健康診断書の発行にも活用している。しかし組織体制的には何も無く、常備薬やベッドのある保健室で初期対応をしているのみである。
- ・各顧問を中心としたクラブが組織されているものの、資格試験対策補習等時間が無く、必ずしも充実した課外活動が実施されているとはいえない。

② 今後の改善方策

- ・経験不足の教員に対する、学生に対する就職支援研修を実施する。
- ・担任は学生と個人面談を行い、入学後出来るだけ早い時期にその状況を把握するように努める。また常駐している臨床心理士がその対応にあたるように体制を整えている。

③ 特記事項

- ・夜間部の設置や厚生労働省人材育成支援助成に取り組んでいる。
- ・高等学校との連携は、出前授業等を実施している。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できる よう整備されているか	4	3	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修 等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
○防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・ 学生数の増加と共にクラス数が増加している。時間割の関係で十分な教室・パソコン室・実習場所の確保が課題である。
- ・ 建築系のインターンシップは義務づけていない。ただし、個人的な希望者には対応している。土木系は完全実施できており、実施体制が整備されている。
- ・ 年1回 5月の防災訓練のみで、自衛消防隊組織表・職員緊急時対応マニュアル等の作成が課題である。

② 今後の改善方策

- ・ 授業内容の再検討や外部委託実習などの利用、土曜日授業を検討する。
- ・ 危機管理マニュアルの作成をする。

③ 特記事項

- ・ 学園組織である教務委員会にて、「危機管理マニュアル」を平成30年度作成中である。
- ・ 一部の教室を倉庫として改装し、帰宅困難者（学生1000名・教職員50名用）の防災備蓄品を配備した。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	3	2	1
○学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
○学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	4	3	2	1
○学生納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

- ・本校の学生募集活動は特定の部署に任せるのではなく、全教職員が各々の役割を持って募集にあたっており、特に課題はない
- ・時期によっては1日10校の高等学校での相談会もあり、学生募集活動が困難な事もある。また、体験授業型の相談会も増加傾向にあり専門担当者の出向が困難である。

② 今後の改善方策

- ・全教職員対象の広報研修会の充実やデータ分析により更に効率的な募集活動が出来るように研究が必要である。
- ・専門外の体験授業が出来るように職員研修を行い、誰でも体験授業が実施できるようにする。

③ 特記事項

- ・特記事項なし

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

- ・ 専門学校を取り巻く経営環境は少子化等のため大きく変化しており、急速な悪化が予想される。このような厳しい状況の中でも安定した入学生を確保することが課題となる。

② 今後の改善方策

- ・ 財務基盤を安定させるためには、一定数以上の入学生を確保し続ける事が必要である。そのためには、絶えず教育内容の見直しを図り、広報力を更に強化し、また退学などのドロップアウト対策も強化して、学納金収入を確保することが必要である。

③ 特記事項

- ・ 会計監査は、毎年1回公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票など並びに現金、貯蔵品などの証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による内部監査を行っており、適正に実施されている。

私立学校法に従って、当該年度の財務諸表および事業報告書を毎年作成し、理事会の決議を経て、法人事務局に常備し閲覧できるようにしている。財務情報（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書）は学園Webサイトにて毎年更新公開している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
○自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・教職員に対しては個人情報の学外への持ち出し、メールやFAXの取扱いに注意を払い管理を行っている。ただし、学生との連絡など通信手段としてSNSを利用しているが、SNSの脅威を把握せず活用している教員がいる。

② 今後の改善方策

- ・個人情報の管理の徹底を図るとともに、「電波学園 SNSセキュリティポリシー」・「公式SNSを運用する担当者のガイドライン」および「電波学園教職員SNS使用時のガイドライン」に基づき運用する。
- ・「危機管理マニュアル」を早期作成する。
- ・部科長主任会議を定期的開催し、各種の法令遵守に関して全教職員が情報を共有できるようにするとともに、個人情報管理の徹底管理を図る。

③ 特記事項

- ・個人情報の管理場所として一室設け、施錠をすることで持ち出せないように保護をしている。
- ・個人情報保護については、新学期に保護者宛文書を作成し、承諾を得ている。
- ・学園組織である教務委員会にて、「危機管理マニュアル」を平成30年度作成中である。
- ・平成25年度より学校関係者評価委員会を立ち上げ、外部者による評価を取り入れて、結果公表を学校ホームページで公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
○学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・社会貢献活動は、年2回実施の献血運動程度である。
- ・地域への公開講座の開催は無いのが現状である。社会人教育の受け入れは積極的に実施している。
- ・ボランティア活動は自発的意志に基づくものであるため、学校としては各種活動の案内に留めている。

② 今後の改善方策

- ・学校の特色を活かした公開講座等の検討を今後実施する。
- ・学生のボランティア活動は、学生会が中心となり活発な活動ができるような仕組みを検討しなければならない。

③ 特記事項

- ・献血活動、高校教員の教育受け入れを実施している。

(11) 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1
○留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
○留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
○学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

① 課題

- ・留学生の日本語力向上のための取り組みが不足している。

② 今後の改善方策

- ・学園挙げての日本語力向上（日本語検定試験対策講座の複数回又は継続的な実施）の取り組みが必要である。

③ 特記事項

- ・今後、留学生の在籍数は全体の1割程度としているが、その受け入れについては、数よりも日本語能力・学習意欲・経済的能力を重視し厳しく審査した上で入学を許可している。

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・学園建学の精神に基づき教職員が一つの方向を向いて教育に当たっている。
- ・その進捗管理は、学園合同会議や定期的実施する学園本部との協議会で状況を把握し問題点の洗い出し、改善の取組みをしている。
- ・平成29年度の自己評価を終え、『学園の建学の精神』や『理事長の方針』に則り全体的には安定した運営が行われていることを確認することができた。
今後は、「入学生の安定的な確保」と「教職員の計画的な雇用」について特に重点を置いて取り組んで行かなければならない。
また、入学生の増加と共にクラス数も増加する。カリキュラム構成や土曜日授業を検討するなど、十分な教室・パソコン室・実習場所の確保を重点検討として取り組む必要がある。
- ・学内では、週1回の連絡会議を実施し問題点の共有、意識統一を行っている。
- ・学校評価の全体としては概ね良好と評価できる。ただし、教育水準を上げるために学科ごとの教育すべき内容のチェック、学科目間の調整等々教育設計図の再構築が急がれるところである。その後、学科目1時間ごとのコマシラバスの整備を行い教育の更なる充実に取り組むことが課題となっている。
- ・東海地区保護者会や教育懇談会の出席率を向上させ、保護者との距離を縮めることでドロップアウト率を減少させ、内部進学を向上することで、入学前の「夢をかたちに」を現実にさせ、周囲から「ありがとう」と感謝される学校づくりを更に取り組む必要がある。

●学校運営

- ・建設業界の人気回復が本校の学生数増に伴う経営の安定化を図る道と考え、建設業界のPR活動を引き続き実施する。
- ・入学生数確保に向け、平成29年度以上に高等学校への出前授業校を確保することで、オープンキャンパス参加者数増加につなげたい。
また、オープンキャンパス参加者の出願率を向上させるために、オープンキャンパスの内容の充実やスペシャルイベントの企画を実施する。
- ・岐阜県高等学校教育工業部会との連携を足掛かりに、東海4県の工業高校を中心に教育連携事業の展開を模索し、高専連携を実施できる環境を整えることで、建設業界の人気回復を図りたい。
- ・中学生に対する職場体験を開催し、建設業界の魅力発信の場としたい。

●学習指導

- ・基礎的能力を向上させる手段として、継続的なThanksドリル(eラーニング)を実施させる。担任・担当で指導差が起きないように、年間計画を作成する。
また、入学前教育として、AO入学のプログラムとしても活用する。
- ・Thanksドリル(eラーニング)機能であるオリジナル問題作成により、国家資格対策問題や授業の確認試験問題などを作成して活用する。

- ・授業科目において「わかる授業」を展開し、基礎能力の定着を目指し、興味関心が持てる授業を進める。また、将来につなげることができるよう常に授業内容を見直し、社会のニーズにあった内容を計画していく。
- ・定期的なシラバス・コマシラバスの見直しをする。
- ・学生による授業評価アンケートを学生イントラネット（W e b）で毎年2回（前期・後期）実施し、よりわかる授業および授業の進捗管理を徹底する。
- ・資格取得については、合格率は例年とさほど変化はないが、学生に資格取得の意義を理解させ、多くの学生が積極的に取り組めるように補習指導を強化し、合格者輩出の向上を目指す。

●進路指導

- ・平成30年度より、就職指導室により各クラスでの就職活動研修を実施することで、早期指導を強調する。
- ・建築系学科のインターンシップに関する学校の取り組み体制（保険制度の見直しや紹介状の発行、企業との橋渡し等）の整備が必要。
- ・就職試験で企業が使用されるSPI試験対策として、T h a n k s ドリル（eーラーニング）を充実させる。